

令和5年11月

袋井市議会定例会

代表質問通告内容

インターネットで本会議の中継（録画）放送を行っています。
Yahoo! や Google などの検索画面から
袋井市議会を検索して、御覧ください。

傍聴者の皆様へ

携帯電話はマナーモードへの切り替えをお願いいたします。

袋井市議会

代表質問通告議員

実施日時	質問順	会派名 議員名	質問形式	ページ
12/5 (火) 午前	1	自民公明クラブ 村井 勝彦	一括	3
12/5 (火) 午後	2	市民クラブ 立石 泰広	一括	6
	3	緑風会 大場 正昭	一括	9

質問順序	1	会派名	自民公明クラブ	質問者	村井 勝彦
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1 市政運営	<p>(1) 令和6年度当初予算編成にあたって</p> <p>ア 市政運営を進める中で、市長の就任にあたっての公約に関してどのように評価し、来年度の当初予算編成を行っていくか。</p> <p>イ 予算編成において、市政の現状における喫緊の課題をどのように捉えているか。</p> <p>ウ 予算編成において、物価の高騰が続く中で、市民生活の向上に向けてどのような対応をされていくか。</p> <p>(2) 人口減少対策</p> <p>ア 外国人の人口が増加傾向にあるが、今後における外国人の人口はどの程度と見込んでいるか。</p> <p>イ 移住・定住希望者への対策はどうか。</p> <p>(3) 職員の働き方改革</p> <p>ア 本市の事務事業などの見直しや外部委託の取組の進捗状況は。</p> <p>イ 職員の病気などによる長期休暇の状況と職場環境の向上に向けてどのように対応されているか。</p> <p>ウ 官民連携によるまちづくりの推進に向けて、人事交流などによる効果と今後の取組は。</p>				市長
2 健康づくり施策の方向性	<p>(1) がん検診の受診率の向上を図るため、受診しやすい体制の充実などを図り、効果的な受診率向上対策を行うとしているが、具体的にどのような対策を考えているか。</p> <p>(2) 働く世代の健康増進を図るため、保険者や企業などと連携した健康づくり施策を図るとしているが、具体的にどのような施策を考えているか。また、健康づくりを推進している企業などに対してどのような支援を行っていくか。</p>				市長
3 地域と連携し、行きたい、行かせたいと思える、魅力ある高等学校づくり	<p>(1) 令和6年度の入学生のクラスが1クラス減となるが、市内の2高等学校の置かれた現状をどう捉えているか。</p> <p>(2) 市内の3高等学校とは地方創生推進に向けた連携協定のもと、さまざまな事業に対して高校生が参画し、地域について学び、考えていく中で、生徒の考え方や学校運営などにおいて見えてきた課題は。</p> <p>(3) 商業教育高度化対応研究会における「観光科」の設置に向けた調査研究から、袋井商業高校への観光学科の設置の見込みは。</p> <p>(4) 産学官民が連携した地域ぐるみのコンソーシアムによる「高等学校魅力化プロジェクト」への取組と協議会化が必要ではないか。</p>				市長

3	(5) 地元高等学校教育の魅力化は、教育施策でありつつも、移住・定住促進施策でもあると考えるが。	市長
4	<p>魅力あるまちづくりと産業振興</p> <p>(1) 森町袋井インター通り線の整備の推進と沿線の土地利用計画の考え方。 ア 森町袋井インター通り線の整備を図るうえで、どのような課題があると認識しているか。 イ 袋井市都市計画マスタープランにおいて、森町袋井インター通り線の沿線は「都市活力創出地」と位置づけられているが、今後、どのような土地利用を図っていくか。 ウ 森町袋井インター通り線及びその周辺については、農業振興地域に指定されているが、整備にあたり、農業振興と産業振興に関してどのように整合を図っていくか。</p> <p>(2) 大和ハウス工業㈱の移転に伴う跡地利用と周辺地域のまちづくり ア 大和ハウス工業㈱の土橋地区への移転が本格化する中で、現在の工場の跡地利用をどのように誘導していくか。 イ 現在の大和ハウス工業㈱の周辺地域のまちづくりについて、どのような検討がなされているか。 ウ 主要幹線である国道1号線沿線の農地については、農業振興地域に指定されているが、まちづくりを進めるうえで主要幹線沿いの土地の有効利用は本市並びに地域にとっても重要な課題でもあることから、今後の土地利用計画に関する考え方はどうか。</p> <p>(3) 荒廃農地対策 増加傾向にある荒廃農地の現状と荒廃農地対策についてどのような検討を行っているか。</p> <p>(4) 地域の環境を守る活動への支援 ア 自治会などが行う道路や河川などの除草活動等への支援の充実を図る必要があるのではないか。 イ 本市の地域資源でもある「浅羽海岸」については、現在、主に浅羽地区の市民がクリーン作戦を行い、環境保全に努めていただいているが、この活動を市民全体の活動と位置づけ、さらなる環境保全に努めていくことが必要ではないか。</p> <p>(5) ごみ減量化の推進に向けた取組 ア 現在「ふくろい5330（ごみさんまる）運動」を展開し、可燃ごみの削減や排出ごみのリサイクルなどに取り組んでいるが、当初計画に基づく減量化及びリサイクル率の見通しはどうか。 イ 紙おむつや下水汚泥などのリサイクルの取組は。</p> <p>(6) 市民に寄り添った地域公共交通の取組 ア 現在、各地域に導入されている地域公共交通について、どのように評価しているか。また、課題をどう捉えているか。 イ 国が検討している「ライドシェア」について、どのように考えているか。</p>	市長

5	<p>安全・安心に暮らすことのできるまちの推進</p> <p>(1) 再犯防止に向けた取組</p> <p>ア 再犯防止等の推進に関する法律についての認識は。</p> <p>イ 協力雇用主への調査と優遇措置等の考え方は。</p> <p>ウ 再犯防止推進計画を策定する考えは。</p> <p>(2) 土砂災害防止に向けた対策</p> <p>集中豪雨による土砂災害の防災対策として、森林環境譲与税を活用し、森林整備等の対策を行うべきではないか。</p> <p>(3) 自治会施設等の維持管理に対する支援制度の拡充</p> <p>自治会の集会施設等は、地域コミュニティの各施設であり、また、災害時には1次避難施設となる施設であることから、持続可能な活動の拠点施設に関して、施設の維持管理に関しては、行政として地域の要望を聞いたうえで支援制度の拡充が必要ではないか。</p> <p>(4) 災害時における避難対策</p> <p>ア 「わたしの避難計画」を策定する考えはあるか。</p> <p>イ 外国人の安否確認についてどのように対応していくか。</p>	市長
---	---	----

質問順序	2	会派名	市民クラブ	質問者	立石 泰広
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	<p>令和6年度の予算編成方針、デジタル・環境政策 令和6年度の予算編成方針と、デジタル化の推進、脱炭素化・可燃ごみの削減等環境政策について伺う。</p> <p>(1) 政策立案にあたり意識すべき6つの視点とは、どのようなことか。また、今年度の方針からの変更点は何か。</p> <p>(2) 令和6年度の方針で、大場市長が特に思いを込めたことは何か。</p> <p>(3) デジタル化の推進 ア 「第3次袋井市ICT推進計画・官民データ活用推進計画」31政策の進捗評価と次期計画への展開はどうか。 イ 「第1次袋井市デジタル推進計画」の方針と新たな政策は何か。</p> <p>(4) ゼロカーボンシティ宣言、2年目の成果と次年度の取組は何か。</p> <p>(5) 可燃ごみの削減 ア 「ふくろい5330（ごみさんまる）運動」、今年度末の削減見込みはどうか。 イ 次年度で中間目標である15%削減を達成するための施策は何か。 ウ 中遠クリーンセンターの処理限界に対する削減率、処理費の削減効果、環境省の指標に沿った排出量を定期的に報告してはどうか。</p>				市長
2	<p>健康・長寿政策、介護保険事業 国民の疾病による死亡の最大の原因であるがんの予防対策と、市町村が事業所の指定と監督を行う地域密着型介護サービス事業の課題について伺う。</p> <p>(1) がん撲滅に向けて ア 国の「第4期がん対策推進基本計画」、県の「第3次静岡県がん対策推進計画」を受けて、本市のがん予防、罹患者・家族支援等の対応はどうか。 イ 本市のがん死亡者数の全国・県平均との比較、要因分析、各がんの発生状況等、発生率から見た本市の傾向はどうか。 ウ がん検診の受診率、精密検査の受診率、検診結果等の状況はどうか。精密検査の受診率向上策、検査方法の変更等の今後の取組は何か。 エ 平成25年より本市で導入している胃がんリスク検診（ABC検診）の実施状況と成果はどうか。 オ 日本一健康文化都市を標榜する自治体として、がん対策推進条例の制定を検討してはどうか。</p> <p>(2) 地域密着型介護サービス事業の課題 ア 地域包括ケアシステムを充実させるうえで、市は地域密着型介護サービス事業の位置づけをどのように捉えているか。 イ 昨年度、小規模多機能型居宅介護施設で1カ所の閉鎖があった。こ</p>				市長

4	<p>(2) 魅力ある学校づくりの推進</p> <p>ア 令和4年の評価では、自己肯定感（有用感）を感じる児童生徒が増加し、中学で問題行動が減少した一方で、不登校生徒数の割合が増加した結果をどう捉えているか。</p> <p>イ 児童生徒の自己肯定感（有用感）を高めるために、どのような取組を行っているか。</p>	教育長
5	<p>袋井商業高校、横須賀高校の今後について</p> <p>これまで袋井市の地方創生の柱の一つとして議論されてきた袋井商業高校の5年制化、袋井市出身の生徒が全生徒の約3割を占める横須賀高校の池新田高校との再編計画、それぞれについて市の考えを伺う。</p> <p>(1) 平成27年11月定例会、大庭通嘉議員の袋井商業高校5年制化に関する代表質問に対し、当時の原田市長は、本年度は県へ具体的な要望等の働きかけを行うとともに発起人会を発足する。平成28年以降は、促進協議会を立ち上げる必要があると答弁された。大場市長になられて、これをどう承継されるのか。</p> <p>(2) 静岡県教育委員会は、昨年10月18日に開催された第1回小笠地区地域協議会において、横須賀高校と池新田高校の再編計画を一旦白紙に戻し、改めて検討することを表明した。その後、2回の小笠地区地域協議会が開催され検討が重ねられてきた。市はこの一連の動向をどう捉え、どう対応していくのか。</p>	市長

質問順序	3	会派名	緑風会	質問者	大場 正昭
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	放課後児童クラブの取組について 放課後児童クラブとは、保護者が昼間、家庭にいない子どもの人権や権利を守るための施設であることを踏まえ、市の現状と国の方針とをマッチングさせ、支援員と保護者が共同で子どもたちの成長と発達を促す必要がある。以上のことを促進させるため、今回、提案も含め伺う。 (1) 待機児童ゼロのクラブは、申込者全員を受け入れできているという解釈でよいか伺う。 (2) 「支援の単位」の人数に関する、我が市の考えを伺う。 (3) 国の補助金の活用について、現状と今後の活用見通しを伺う。 (4) 来年度、子ども家庭庁における放課後居場所緊急対策事業（保育対策総合支援事業費補助金）のうち、拡充予定である待機児童の学校敷地内での居場所づくり対策の我が市における市の対応はどうか伺う。 (5) 新・放課後子ども総合プランに基づく袋井市における放課後子ども教室との連携について、現時点での実施状況を伺う。 (6) 子ども家庭庁成育局成育環境課提案の放課後児童クラブ長期休業期間等における食事提供（学校給食等）について、所感を伺う。				教育長
2	我が市のフリースクールの実態と対応について 文部科学省の調査によれば、昨年度全国で約30万人の小・中学生が不登校となり、過去最多となっている。静岡県は小・中とも全国10位の多さである。「いじめ」「友人関係」「体調や病気」「勉強や進路の悩み」などが原因で、コロナ禍による生活環境の変化が子どもたちの行動に大きな影響を与えている。我が市として、どう考えるか。 (1) 我が市の子どもたちの不登校の実態はどうか。 (2) フリースクールとどう連携しているか伺う。また、支援の在り方はどうか。 (3) 不登校の子どもたちの受け皿となるフリースクールの役割をどう認識しているか。 (4) フリースクールに対する教育委員会の基本的な考え方はどうか。				教育長
3	スポーツを核とする地域活性化について 我が市はこれまで市民のスポーツ環境の充実やスポーツによる地域活性化に取り組んできた。近年、全国の市町村自治体においても同様の取組が進み、自治体間競争が高まる中、今後スポーツを通じたまちづくりを、地域の稼ぐ力の向上にいかに関わり付けていくのか、市当局の見解を伺う。 (1) 本年、「袋井市スポーツツーリズム推進協議会」の初会合が開催された。スポーツ大会や合宿等を誘致し、観光促進につなげるため、我が市は同協議会と連携し、どのような具体的取組を図っていくのか。				市長

3	<p>(2) 我が市は、令和3年度に静岡ブルーレヴズとパートナー協定を締結し、本年度にジュビロ磐田のホームタウンの一つとして追加・承認された。年間を通じて継続的な誘客及び集客が見込まれることから、エコパを中心にアウェイゲーム観戦に訪れるファンやサポーターを観光につなげる「アウェイツーリズム」を推し進め、経済波及効果の拡大やより一層の相互連携強化に努めていくべきと考えるがどうか。</p> <p>(3) 我が市において、北米のスポーツイベントでは定番の、「テールゲートパーティー」といった「スポーツ観戦」「飲食」「音楽」を組み合わせた取組を今後展開・支援していく考えはあるか伺う。</p> <p>(4) 宿泊を伴う滞在型観光の推進は、市の課題の一つであると認識している。トップアスリートや著名な指導者を講師として招聘し、市内外の子どもたちを対象とした宿泊を伴うスポーツ合宿やイベント等を実施していくことも、課題解決の大きな一助につながると考えるがどうか。</p> <p>(5) 海のにぎわい創出事業の取組が大きく前進し、地域おこし協力隊制度の活用も着実に進みつつある。同隊員の活動の柱にスポーツ大会や合宿等の誘致に向けた取組を盛り込んでいくべきと考えるがどうか伺う。</p> <p>(6) 我が国において、2025年に世界陸上、夏季デフリンピック、2026年にアジア競技大会、アジアパラ競技大会、2027年にワールドマスターズゲームズといった大規模な国際競技大会の開催が決定している。これまでのホストタウンの経験を活かす好機と考えるが、今後開催される国際大会の事前合宿誘致及び事後交流に取り組む考えはあるか伺う。</p>	市長
4	<p>台風被害を踏まえた内水氾濫対策について</p> <p>頻繁に発生する浸水被害に見るように、これまでとは降り方が変わり、過去の経験則が当てはまらない。従来にも増して、治水対策に意を配る、柔軟な対策を講じ、同じような浸水被害に遭うことは避けなくてはならない。内水氾濫による浸水対策が喫緊の課題と捉え、我が市の対応、対策を伺う。</p> <p>(1) 市長の掲げる市民の安全安心な暮らしを守るという観点から、土木防災としての内水氾濫常襲地区に関する現状について、どう考えているのか伺う。また、6月の台風被害の大きかった川会地区や村松地区を中心とした地区の浸水被害の低減に向け、今後流域治水対策をどのように進めていくのか伺う。</p> <p>(2) 市内の河川では河床掘削が進んでいる。今後は流量が増えれば、下流側の内水氾濫を早め、冠水時間が長くなり、さらに被害が拡大する可能性が考えられる。このことについて、市としてどのような対応を考えているか伺う。</p> <p>(3) 我が市では、マイタイムラインや水害ハザードマップ等、自助共助の体制の強化について、再点検等を行い、見直していく考えはあるか伺う。</p> <p>(4) 内水被害を防ぐためには、水位が上昇し、行き場のなくなった内水は本川に強制排水するしかないと思われる。市内にある樋門はほとんど強制排水に必要となるポンプは設置されていない現状である。土木防災上の観点から、この設置が少ない状況をどう捉えているのか伺う。</p> <p>(5) 市内河川にはバックウォーター（逆流）現象防止のため、樋門が多く</p>	市長

4	<p>設置されている。設置から相当な年数が経過し、長年メンテナンスがされていないように思う。土木防災上、果たして樋門として機能するのか、疑問である。この点について、市の見解を伺う。</p>	市 長
5	<p>我が市の農業振興について</p> <p>我が市では、温暖な気候及び地形を生かし「温室メロン」「茶」「米」を中心とする多彩な農産物を産出している。しかし、農業者の高齢化及び後継者不足に伴う農家数の減少や、収益性の悪化などにより、農業を取り巻く環境は厳しいものとなっている。そのことから、問題解決に向けた対策の強化を図ることが求められている。</p> <p>(1) 特産物を守っていくうえで、農業者人口の減少に対し、どのように考えているか伺う。</p> <p>(2) 新規就農者に補助金があるのに対し、親元への新規就農者には補助金がないのが現状である。それらに対しても補助金が必要であると考えがどうか。</p> <p>(3) 担い手への農地の利用調整やマッチングはどうであるか伺う。</p> <p>(4) 景観や防犯対策のためにも、荒廃農地を解消していく取組が重要であると考えがどうか。</p>	市 長